

学校運営計画 (4月)				評価 (3月)	
学校運営方針	1 身は健やかにして気宇ひろく、進取の気象に富んだ人物を育成する。 2 次の時代の担い手として不撓不屈の精神で、広く社会に貢献する人物を育成する。 3 伝統と文化を尊重し、わが国と郷土の発展に目翳をかざす人物を育成する。			A	
昨年度の成果と課題	平成29年度重点目標		具体的目標		
昨年度、「本気の文武両道」「本気の東筑魂」の実践を通して、進学と部活動の実績とともに伸ばしてきたが、進学実績に課題が残った。 今年度は、「本気の文武両道」「本気の東筑魂」を踏襲しつつ部活動や学校行事を通して、基本的生活習慣を身に付けた何事にも主体的に取り組む生徒、自ら高い目標を設定して困難に直面しても前向きに挑戦するチャレンジ精神旺盛なたくましい生徒の育成に努める。また、SSH事業が指定の最終年度であるので、「東筑アクティブ・ラーニング」の構築と研究開発を完成させる。これらにより、昨年度の課題克服を行う。	「本気の文武両道・本気の東筑魂」を実践して、進学実績、部活動実績とともに伸ばす。	①高い志や意欲を持って、自らの目標を達成するために主体的・計画的に取り組む生徒を育成する。 ②部活動と勉学の両立を図るとともに、集団生活をよりよくしていくために主体的に行動できる生徒を育成する。			
	チャレンジ精神旺盛なたくましい生徒を育成する。	①自ら高い目標を設定し、困難に直面しても前向きに挑戦する生徒を育成する。 ②他者への思いやりを持って多様な人々と協働することができる集団づくりに努める。			
	SSHの取組を通して東筑のアクティブ・ラーニングを構築し、学力の向上に繋げる。	①東筑生の実態に応じたアクティブ・ラーニング型授業を行うことによって、論理的にものごとを考察し、自ら探究する姿勢を持った生徒を育成する。 ②SSH事業と様々な教育活動の融合を図り、キャリア教育の更なる充実を図る。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
教育推進	教務	部活動と両立した家庭での学習習慣の確立と更なる学力の向上を図る。	ライフレポートの活用・分析を行うことによって、生徒の学習習慣確立と学力向上に資する。 より高いレベルの内容に生徒が挑戦できるような授業の工夫と改善、課題の質・量の検討を各教科・科目内で更に深める。 評価方法についての検討を、各教科・科目内で更に深め、授業改善に繋げる。	A B B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査における問題用紙の枚数確認、得点入力など、ミスを起こさないようマニュアルを作る。 ・各教科でルーブリックを作成し(教育研修班と共同)、生徒に示す。 ・課題の提出について、各教科で提出の割振、量について、適切に行われているかを学年の教務係が定期的に確認する。
		出席率99%以上の達成を目指す。	学校生活における満足度を向上させるために、学校行事やホームルーム活動の充実を図る。	A	
			生徒指導班・保健教育班と連携しながら、生徒の生活実態を把握し、学年で情報が共有できるようにする。	A	
			生徒の状況が教員同士で共有できるよう、ファイルを作成し、活用する。	B	
		各教科において東筑のアクティブ・ラーニングを指導計画に組み込む。	研修部と連携してアクティブ・ラーニングについての研究を各教科内で深め、研究授業等にも積極的に取り入れていく。	A	
			授業アンケートを授業改善、東筑のアクティブ・ラーニングの構築に活かす。	A	
	「学校設定教科Ti」をより効果的に活かせるようにSSH推進班との連携を図る。		A		
	企画広報	保護者や地域社会と連携し、生徒の進学実績、部活動実績の伸張を図る。	本校への見学、中学校等での進路説明会などの地域からの要望に対応し、地域に開かれた学校づくりを目指す。	A	
			P T A、同窓会との連携を通し、さらなる教育活動の充実を図る。	A	
			様々な機会を活用し、本校教育活動に対する理解や協力を促す。	A	
		生徒のチャレンジ精神を喚起する厳粛な儀式・式典、活発な学校行事を推進する。	全職員による協力体制を確立し、儀式・式典、学校行事を円滑かつ組織的に運営する。	A	
			前年度の課題、反省を活かして、より良い儀式・式典、学校行事を企画、立案する。	A	
記録などをもとに、儀式・式典、学校行事の細部を見直し、全体のマイナー・チェンジを図る。			B		
広報活動を充実させ、SSHをはじめ教育活動の活性化を図る。	進路相談事業や中学生体験入学の内容を充実させ、本校教育活動の地域社会への周知を図る。	B			
	様々な媒体を活用し、本校教育活動に関する情報をリアルタイムで発信する。	B			
	ホームページを定期的に更新して、最新の情報発信に努める。	B			
生徒育成	精神力の鍛錬	基本的生活習慣の確立	A		
		困難に立ち向かう力の育成	B		
		甘えを許さない姿勢の堅持	A		
	自治意識の更なる醸成	生徒会活動の更なる活性化	A		
		各委員会活動の更なる活性化	B		
		東筑生としてのプライドの育成	A		
	集団の質の向上	心の教育・人間教育の強化	B		
		いじめを絶対に許さない雰囲気・取組の確立	B		
		全ての生徒が安心して過ごせる環境の整備	B		
<ul style="list-style-type: none"> ・盗難や事故のない安全・安心な環境づくりをする。 ・行事の企画や基準が突然変更になることによる生徒の負担・不満を増やさないように事前準備を行う。 ・全職員への校則等各基準に沿った指導法等共通認識を徹底する。 					

生徒育成	保健教育	生徒が「本気の東筑魂・本気の文武両道」を実践できるような保健管理を行う。	各学年やスクールカウンセラーと連携し、悩みを抱えた生徒の把握と課題解決に組織的に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃区域の確定及び特例的な清掃活動（二学年修学旅行や三学年自宅学習に伴う他学年による当該区域の負担）に関する早期提示を行う。 ・当番清掃の在り方（月曜日の当番清掃の見直し）を見直す。 ・生徒の心身に関する情報の活用の仕方（教務班と連携したライフレポートの活用や生徒観察シートによる情報の共有法及び活用法）を工夫する。 	
			定期野球大会や体育祭などの学校行事において、組織的な保健活動に取り組む。	A			
			ライフレポートや生徒観察シートを用いて生徒の状況を把握し、保健指導に積極的に活用する。	B			
		健康的な生活をおくることができる資質とたくましさを生徒に育む保健教育を実践する。	「性と心の健康相談」講演会等を通して、健康についての正しい知識を身につけさせる。	A	B		
			クラスマッチ、修学旅行などの学校行事や、季節ごとの病気の流行期において、適切な保健指導を行う。	A			
			平素の清掃活動を通して、清掃に対する自主的自発的な態度を育成する。	C			
		外部機関を有効に活用して職員と生徒の健康増進を図り、生徒の学力向上に繋げる。	健康診断担当医師との連携を十分に図り、健康診断を円滑に実施する。	A	A		
			外部機関との連携を十分に図り、悩みを抱えている生徒の早期発見と当該生徒に対する支援に努める。	B			
			医療や心療関係の専門家による研修会を企画、運営し、本校職員の生徒理解を深めるとともに、関連する事案への対応力を向上させる。	A			
	人権教育	人権教育特設授業について、全職員で取り組む意識と体制を継続していく。	年間4回（第3学年は3回）の人権教育特設授業を担任・副担任で取り組む体制を継続していく。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・新一年生に対するSNS等インターネット上のモラルについて啓発について、今後も継続して行う。 ・人権特設授業の講師招聘は、先方との内容確認、打合せをしっかりと行う。
			職員会議や研修会等において、参加した人権教育に関する研修会の報告を行い教職員に還元する機会を作る。	B			
			特設授業に使用できるDVD等の教材を増やし、生徒の状況に即した多様な授業計画ができる体制を整える。	A			
教科やホームルーム活動等、全教育活動の中で、生徒、教師ともに人権感覚を養う。		各教科の指導においても人権感覚を意識した授業ができるよう啓発活動を続けていく。	A	B			
		校内やクラス内の掲示物を充実させ、人権に対する意識を深めさせる。	B				
		「北九州市人権週間」などを利用して「いのちの大切さ」についての啓発活動を行う。	C				
		各分掌や委員会と連携を図り、不登校やその傾向にある生徒の早期発見、早期解決に取り組む。	B				
家庭や学年との連携を図りつつ、学業や進路等に悩む生徒の支援を行う。	各学年、担任・副担任、事務室、養護教諭との情報交換を密にして生徒の実態把握を組織的に行う。	A	A				
	奨学金等担当との連携を密にし、経済的に不安を抱える生徒の支援体制を強化する。	A					
キャリア教育	進路指導	志を高く持たせ、目標に対して主体的・計画的に取り組む集団を育成する。	既存の学校行事等を活用し、九州大学、東京大学、京都大学、医学部医学科等にチャレンジする生徒を増加させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル化等行ったが、進路関係の業務は未だ過重である。業務内容を見直しIT化、ICT化を進め、業務のスリム化を図る。 ・早朝・放課後・長期休業中の課外授業、模擬試験、土曜講座について見直す。 ・先輩学生による進路講演会の内容変更では一定の成果があったが、もっとAL的要素を充実させる工夫をしたい。 	
			生徒が志望している各大学の入試関連情報を適切に伝え、学習対策に結びつける。	B			
			土曜講座、課外授業、講座別課外授業等で生徒の目標に合った講座を実施する。	B			
			社会とどう関わるかという観点から能動的に希望進路を考えさせるため、進路に関するHR等の充実を図る。	A			
			自分の将来のキャリアについて、能動的に考え、その生き方をデザインする姿勢を身に付けさせる。	キャリア教育に関する講演会などの行事を厳選し、継続的に刺激を与え、自分の可能性にチャレンジする生徒を育む。			B
	保護者や教員と最新の進路関連情報を共有し、チームで生徒のチャレンジを支える。	多様な生徒の進路相談に親身に対応できる環境を整備する。	A	B			
		進路だより等を適宜発信し、時期に応じた生徒に対するキャリア教育指導の充実を図る。	B				
		教員の教科研修や、先進校の視察等を通じて、本校独自のALなどの教育システムを洗練させる。	B				
		昨年度より継続して大学入試の変化に即座に対応できるように情報収集を行い、対策を検討する。	A				
SSH推進	SSH指定5年間の研究開発を完成させ、成果を共有する。	理科部のさらなる活性化とともに、その他の生徒向けの産・学・官連携活動を推進し、高い志を育成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業の綿密な計画、事業の精選を行う。 ・SSH事業に関する生徒の活動記録の整理をする。 ・継続新規指定された場合はSSH推進班と各分掌・各教科等との連絡組織を見直して再構築する。 		
			カリキュラム・プログラムの効果を職員・在校生・卒業生・運営指導委員等の評価により検証し、報告書にまとめる。			A	
			効果のあった事業等をさらに改善し、新たな課題を設定して次の指導に活かすためのプランを策定する。			A	
	将来を見通して必要とされる力の育成に効果的なSSH事業を展開する。	論理コミュニケーションの指導体制をさらに発展させ、判断の根拠を示しながら自身の考えを述べる力を育む。	A			A	
		課題研究の発表のスキルの向上や適切な評価のための教材を開発し、研究の質を高める。	A				
		ジュニア研修の参加希望者数を増加させ、高い目標に挑戦する生徒の育成につなげる。	B				
Tiにおいて東筑のアクティブ・ラーニングを構築し、学力の向上に繋げる。	Tiにおける3年次の探究型学習を拡大し、自ら探究する姿勢を持った生徒の育成指導を体系化する。	A	A				
	Ti各科目でのアクティブ・ラーニングの実践を事績として残し、東筑高校ならではの取組を報告書にまとめる。	B					
	SSH予算備品の管理を活用しやすく改善して、主体的・対話的で深い学びの実現をすすめる。	A					
研修	図書教育	定例で発行している新着図書案内と図書館便りを更に見やすく、興味を引く内容にする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が図書館に来る回数を増やし読書量を増やすために、視聴覚室での文化祭や体育祭等の行事のビデオ上映や図書館Rを更に充実させる。 ・生徒昇降口以外でも食堂や渡り廊下、職員室前の廊下など生徒の目につきやすいところで話題の本や新着図書の展示や紹介等を行う。 ・集団読書会で読ませる本のリストをもう一度検討し、本校の生徒にふさわしいものを選び直すことも検討する。 		
		広報活動を充実させ、図書館の利用頻度を高める。	1・2年の図書館ホームルームの実施や普段の終礼やホームルーム等でも図書館を利用してもらう。			A	
			生徒昇降口や食堂などを利用し、新着図書や話題の本、寄贈本の紹介を積極的に行う。			A	
		年間の図書貸出数の目標を六千冊とし、読書感想文コンクールにも積極的に参加する。	SSHの取り組みや社会のIT化、グローバル化に対応するような自然科学系の書籍を積極的に購入する。			B	B
			必要があれば公共図書館や他校の図書館との連携を図り可能な限り要望に応える。			B	
			入試の自己推薦書や二次の小論文対策に役立つ図書の充実を図る。			A	
		集団読書会を更に充実したものにする。	読書会で読む本の選定を担当の先生と連携し、事前に十分に打ち合わせを行う。			A	A
			夏季休業中の図書委員研修会を通して、司会の仕方やレジメの作成を研修させる。			A	
教科会議等で先生方に図書の購入希望を出してもらい、生徒へのリクエストカードも置き場所等を工夫する。	B						

研 修	教育研修	今日の課題に関する職員研修を充実し、指導力の向上を図る。	高大接続改革や高校教育改革の動向を把握し、校内職員研修会や校内広報活動を通じて情報を提供する。	A	A	A	・引き続き、生徒の学力をつける授業のあり方を研究する必要がある。 ・この数年、教育実習希望者が増加し、かつ3週間の長い実習期間を希望する傾向がある。受け入れ人数・期間の長さの制限等を検討する必要がある。	
			経営委員会と連携して学校運営に資する主任主事研修会を企画し実施する。	A				
			AL研修および生徒理解・防災教育等生徒の命を守るための校内職員研修を企画し実施する。	A				
		挑戦し協働する職員の雰囲気をつくる。	県教育センター主催等の外部研修会や他校公開授業への参加およびeラーニングの活用を促進する。	A				
			初任研・2年経過研等の基本研修の成果を職員全体に還元する。 教育実習生に対する教育研修班としての指導を充実する。	B A				
「東筑のアクティブ・ラーニング」の構築を推進する。	教科主任と連携して教科別研究テーマを設定した研究授業・授業参観週間を実施し、AL型授業の実践を促進する。 SSH推進班と連携して「論コミ」に関する職員の指導力の向上を図り、ICT機器等のSSH物品の活用を促進する。 教務班と連携して資質・能力の育成方法およびその評価方法について提案する。	B A C						
学 年	第1学年	基本的な生活習慣の確立	笑顔で元気に挨拶し、集団生活を円滑に進めさせる。	A	A	B	・盗難やいじめに関する問題行動をなくすため、積極的な生徒指導を強化する(規範意識の向上)。 ・授業(予習・復習・課題・小テスト)の大切さの意識付けを徹底する。 ・東筑手帳の活用(管轄・活用方法例など)を推進する。	
			家庭と連携し、安易な遅刻・欠席をさせない。	A				
			社会の一員であることを集会やHRで話していき、規範意識を高める。	B				
		基礎学力の確立	清掃をきちんと行い、学習環境を整える。	B				
			授業の予習・復習を習慣とさせ、生活スタイルを確立させる。	B				
			課題など前向きに取り組み、提出期日をしっかりと守らせる	B				
	進路意識の向上	個人面談や学年集会などを通して、進路に対する意識を喚起させる。	B					
		個人面談や学年集会などを通して、適切な文理選択をさせる	A					
		さまざまな進路行事に積極的に参加させる。	A					
	第2学年	基本的な生活習慣の体得とたくましさの育成	家庭と連携し、1年次に引き続き、安易な遅刻・欠席をさせない。	A	A	A		・盗難やいじめを許さない雰囲気作りに努め、教育活動のベースとなる「安心・安全」を確保する。 ・クラス編制においては細心の注意を払って実施していく。 ・修学旅行に関して、ホテルでの生活やB&Sなど、安全面での課題が出たので、十分に対策を練る必要がある。
			身近にいるさまざまな人々と協働する機会を設け、多様な体験をさせる。	A				
			私物の管理、ロッカーの適正利用、スマホの適正利用を指導する。	B				
		基礎学力の定着と向上	実体に応じたアクティブ・ラーニング型授業で自主的な学習態度を身につけさせる。	B				
			習熟度別クラス、習熟度別授業を生かして基礎学力の定着、向上を図る。	B				
			東筑手帳を有効活用させ、自宅学習・週20時間を確保させる。	B				
進路目標の決定		授業・HR・SSH事業を通して、「志」と高い進路目標を持たせる。	B					
		さまざまな進路行事や個人面談を通して適切な進路目標を設定させる。	A					
		HR・学年集会・進路便りなどを通して適切な情報提供を行う。	A					
第3学年	学力の伸長	予習・授業・復習のリズムを軸とし、課外・土曜講座に意欲的に取り組む姿勢を促す。	B	B	A	・今の生徒に最も合ったクラス編制について、文理離間クラスを含めて学級数についても毎年検討する必要がある。 ・進路に関する仕事が集中しないように仕事の分担を考える。 ・英語・数学・国語間での連携を強化し、各学年に応じた学習配分を考える必要がある。		
		自習室を活用し、1日5時間の家庭学習を徹底させる。	B					
		教科間での連携を密にし、組織的に教科指導を行う。	A					
	基本的な生活習慣の徹底	服装・頭髪等の身だしなみや挨拶・言葉遣い等の社会人としてのマナーを遵守させる。	A					
		部活動・学校行事を積極的に取り組ませ、帰属意識を高めさせる。	A					
		規範意識の醸成を図り、地域から愛される東筑生を目指す。	B					
	進路指導の充実	東大・九大を中心とした進路指導を学年一体となって行う。	A					
		継続的な個人面談や家庭との連携による個々に応じた進路指導を実施し、進路意識の高揚を図る。	B					
		学年集会や進路便りを通じて進路に関するタイムリーな情報提供を行う。	A					
事務	事務室	明るく開かれた質の高い行政サービスの提供を目指す。	爽やかで明るく丁寧なサービスの提供(接遇)に努める。	A	A		・施設が老朽化している中、生徒が安全で落ち着いた学校生活を送れるよう教育環境の整備充実を図る。	
			公平・公正・適正な事務業務の執行を図る。	A				